

第5回全日本曲技飛行競技会開催の見送りについて

残暑の候、皆様におかれましては益々ご壮健のこととお慶び申し上げます。

全日本曲技飛行競技会につきましては、平成20年の秋に、ふくしまスカイパークでの実施の可能性について話をさせていただき、翌年の試行及び平成22年の第1回競技会開催の後、東日本大震災を乗り越えて、昨年の第4回全日本曲技飛行競技会まで開催を重ねることが出来ました。これは、ひとえに開催地福島をはじめとする皆様のご支援によるものと、深く感謝をしております。

その間、大会名誉会長には、福島市長にご就任をいただきまして、大変名誉なことと、有難く思っております。また、航空関係及び福島市関係の諸団体の後援と、地元をはじめとする各社の協賛を得ての開催でございます。重ねて、感謝を申し上げます。

このような競技会は、その環境、支えていただく人達、及び機材としての飛行機が無ければ実施出来ません。この日本では、まだまだ始まったばかりの曲技飛行競技会ですが、皆様のご期待に応えるべく、今年は更に前進して、世界選手権レベルのアドバンスト競技に取り組む予定でございました。

しかしながら、その競技に使用の予定であったエクストラ300L型飛行機が5月12日の練習飛行後、ふくしまスカイパークへの着陸前の不時着事故で失われてしまいました。皆様には、大変な御心配をおかけしましたが、不時着に際し、搭乗者は全力を尽くして安全確保に努めた結果、地上の被害は最小限、また、搭乗の2名の生命も無事であったことは不幸中の幸いでありました。

当該事故の原因につきましては、現在、運輸安全委員会が調査中の状況にありますが、全日本曲技飛行競技会の主催者であります日本曲技飛行協会(JAC/Japan Aerobatic Club)としましては、この事故を重く受け止め、曲技飛行競技用の飛行機の運用に関する危機管理の総点検を実施し、安全運航改善策の策定及びその関係者全員への徹底を図るべく、進めているところであります。

また、事故で失われた機体は、昨年の全日本曲技飛行競技会にて、延べ8名の選手が競技に使用した主力機でしたので、その機体の事故による喪失の影響は大きく、代わりとなる機体も無いことから、競技の成立に必要な選手のエントリーが得られず、今年の10月に開催の予定でありました第5回全日本曲技飛行競技会につきましては、開催見送りとの判断に至ったものであります。

これまでの全日本曲技飛行競技会を支えていただきました地元福島の皆様、及び全国のファンの皆様のご期待に沿うことが出来ず、誠に申し訳ありませんが、関係者全員への、危機管理及び安全運航改善策の再教育が完了し、新しい曲技飛行競技機体の導入が得られました時点で、また新たな競技会の開催に向けての準備を進めさせていただきたく考えております。今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

平成26年8月11日

日本曲技飛行協会(JAC)

全日本曲技飛行競技会実行委員長

奥 貫 博

